

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		ホームの中だけで生活するのではなく在宅時と同じように地域と繋がりをもちながら地域の一員としての生活を継続する支援をしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		理念の実現に向けて、職員全員が理念を共通理解出来るよう具体例を挙げ、分りやすく伝えている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域の方々から相談を受けた際には理念を伝え理解に繋げている。入居者さんのご家族に対してだけではなく広く地域の方々にも理解して頂けるよう努めている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。		保育所、小学校、近隣の方々との交流を通して付き合いが自然に広がるよう努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		現在、町内会に加入していない為町内の活動に参加する機会が無い。地域との交流を深める事で町内会に加入する事を実現したい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		今後は更に認知症への理解を深めて頂けるよう機会を作り活動していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員に自己評価、外部評価の意義を伝え理解のうえ評価をし、サービスの質の向上に役立てていく努力をしている。改善点があればすみやかに改善しより良いホームづくりを目指している。</p>	<p>より良いサービスを提供する為評価の意義を理解しホームを見直す機会ととらえ真摯に取り組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>入居状況、日頃の生活の様子、行事、事故等の報告をし地域からの参加者、包括支援センター職員、市職員、又ご家族から質問、意見を頂きホームの質の向上と理解に繋げている。</p>	<p>運営推進会議に出席が難しいご家族にも要望、意見を伺う機会を作っている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市からの依頼には積極的に協力し相互理解を深めている。今年度より入居者さんの認定調査の業務委託を受けホームの介護支援専門員が調査を行っている。</p>	<p>市と相互理解を深め市がホームの運営を理解した中で、認知症の方々とそのご家族の皆さんの利益となるような提言をし、市町村と連携をとりサービスの質の向上に努めていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在の入居者さんで対象となる方はいらっしゃらないが、制度については理解をし必要となった際には活用出来る体制となっている。</p>	<p>全職員が制度を理解してはいない為、今後は研修会や、勉強会への参加をし制度への理解を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者会議の中で定期的に身体拘束廃止委員会を開催し拘束への意識を高めている。職員にはユニット会議の中で話しをし、言葉、薬、施錠、ベッド柵等拘束にあたるものを周知徹底し防止している。又講習会へ参加し意識向上に努めている。</p>	<p>何が拘束にあたるか具体的事例をあげながら職員の意識向上に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前、契約時に分りやすく説明し、質問、疑問や不安があれば納得されるまで説明している。契約時には契約書、重要事項説明書、預かり物規定、入居者さんが重度化した場合の指針をお渡しし、1項目づつ説明をし質問に答え、納得の上契約している。</p>	<p>契約時には入居者さん、ご家族の聞きたい事、知りたい事、疑問、不安を尋ね入居者さんの立場に立ちそれらに対して十分な説明をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんの中には言葉で表現出来ない方もいらっしゃるので表情や様子から想いを察する対応を心掛けている。意思表示の可能な入居者さんとはゆっくり話しをする時間をもち話しやすい関係づくりをしている。その中で不安、意見等があればユニット会議の中で都度話し合い、職員全体で情報共有し運営に反映させている。		入居者さん本位の対応をしているが共同生活の中で一人の方の意見が全て、とはならない事柄もあり調整をしながら対応している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	日常の暮らしぶりについてはご家族がホームに来られた際に直接伝えている。受診結果はその都度伝えている。異常時は直ぐにご家族に状況を伝え合意のうえ対応している。預かり金は月末の請求時に領収書とともに明細を知らせている。また毎月代表者、管理者、職員が1ヶ月の様子を知らせる手紙を各ご家族に送っている。		ホームページを作成し日常生活を具体的に知って頂いている。ホームページを作成する事で遠くのご家族にも様子を知って頂いている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族がホームに来られた際には話す時間をもち日常の細かな様子を伝えるとともに、ご家族が要望や質問を気軽に言える雰囲気づくりに取り組んでいる。運営推進会議では要望、意見、質問を頂き返答するとともにホームづくりの参考にしてている。第三者機関を設け苦情の受付と相談窓口であることを伝え理解して頂いている。		意見、苦情があればすみやかに対応し職員とともに考え、更に良いホームづくりに役立てている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や、朝、夕の申し送り、又日常業務の中で職員と話す時間を設け職員からの提案を受け入れ反映させている。また、日頃からコミュニケーションを図れるよう心掛け問いかけしている。		四交替という勤務体制の中で職員全員が揃っての会議が出来ず意志統一に留意している。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が可能な勤務体制となっており緊急時にも十分な対応が出来る。職員が急に休みとなっても勤務交替は十分に可能である。		本人のニーズや生活時間に合わせた体制が取れる人員の確保を今後もしていく。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	両ユニットの交流の機会を設け、異なるユニットの職員とも馴染みの関係になる機会を設けユニット間での職員の異動があってもダメージが少ない対応をしている。入居者さんと職員の馴染みの関係を大切に考え離職者や新規採用の職員がいた際はダメージを最小限に抑える努力をしている。		入居者さんにとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>各研修会、講演会で学んだ事を業務に活かし、出席した職員のみならずの知識とするのではなく全体の共有財産となるよう指導している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>研修会へは自由参加であるが職員は学ぶ事の大切さを理解しており積極的に参加している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>職員の性格、個性を知りその職員に合わせた指導の仕方をしている。職員親睦会を行い良好な関係づくりをしている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>職員それぞれの個性、ケアへの考え方を尊重しながら当ホームの理念を伝え理解を得るようにしている。疲労感を溜めないような勤務体制をとっている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>ご本人の想いや不安を受け止め、安心して頂く事から始めているが、想いを言葉で伝えるのが難しい方に対しては、ご家族からの情報をもとに表情や、行動から想いを知り何を求めているか、何を不安に思っているか等を把握する事に努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>予約をされているご家族には1ヶ月に1度入居状況をお知らせするとともにご本人の様子、及びご家族の悩み、不安を聴き相談を受けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族にとって一番必要な事は何か、を考え対応している。在宅の相談者に対しては包括支援センターや市の福祉課への相談を勧めている。又サービスの種類や内容についての情報をお知らせしている。		必要とするサービスを見極め情報を伝え、ご本人、ご家族の不安がなくなるようにとの想いで対応している。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたりケアマネ、管理者が自宅へ伺ったり、デイサービス利用時にご本人の様子を見に行ったりしている。又サービス提供者から話を聴きご本人の状況を詳しく把握し職員全員で情報の共有をし入居後の対応に備えている。		入居される方は認知症の方でありご本人が納得するというのは難しい状況であるが、入居前に詳しい情報収集をし職員全員に周知する事で入居されてからの安心した生活に繋げている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人の出来る事は何かを見極め負担にならない範囲でして頂き、職員は出来ないところを支える対応を基本としている。ご本人の想いを受け止めながら生活をともにする中で経験豊かな入居者さんから教えて頂く事を大切に考えている。		職員が「してあげる」事が良い事ではなくご本人の「出来る力」を発揮する期間を少しでも長く継続出来るよう努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人に対するご家族の想いを大切に考えている。ご本人がホームで安心して生活される事がご家族にとっても一番安心する事と考えている。ご本人を中心としたご家族の関係を大切に一緒にご本人を支えていく事を基本としている。		ご家族に認知症に対する理解を深めて頂けるよう、折に触れて認知症についての話しをしている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の歴史の中で様々な家族関係があり話して頂ける範囲の中で理解に努めている。ご家族がホームに来られた際の会話の中から理解に努め、来られないご家族については自宅を訪問する等して、よりよい関係を築いていけるよう支援をしている。		ご家族には認知症を理解して頂く事がご本人とのよい関係づくりに繋がると考えている。認知症の理解を深めて頂けるよう機会を捉えて話をさせて頂いている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	在宅時でのかかりつけの病院への受診介助、美容室の利用等馴染みの関係の継続支援をしている。又友人、ご近所の方等のホームへの訪問はいつでも受け入れており制限をしていない。		在宅時の馴染みの場所を把握し、ご本人の精神状態に合わせて行きたい時に行ける取り組みをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同志の関係を把握しているが、その時々状況によって関係も変化する為、常に職員が状況を把握し、関係が穏かなものとなるよう支援している。個別対応を中心にしながら集団で行うレク、行事、催し物、外出等を通じて関わり合い、支え合える関係が作られるように努めている。		集団を苦手とする入居者さんに配慮をし、孤立しない支援をしている。入居者さん同志の関係や個性を活かす場を作るよう努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院の為契約が終了してもお見舞いに伺いホームでの関係を継続している。また、ご家族に近況を聞くなどの対応もしている。		退去時にはご家族と話しをしご本人にとって一番良いと思われる移転先の紹介をする支援をしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ゆっくり話しをする時間をもちご本人の想いの把握に努めている。他者との関わりの場面や、受診、入浴、散歩等の1対1の対応時の会話の中から把握している。困難な場合はご家族や関係者から情報を得、本人本位になるようご家族を交えて話し合い検討している。		認知症によりご本人からの想いの把握が難しい事がある。職員が一瞬の表情を見逃さず変化を感じ取る、という気付き力が必要であり、職員一人ひとりが気付き力をつけていけるよう取り組んでいる。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人、ご家族から話しを聴き、出来る限りの情報を集めている。デイサービスを利用している場合は利用の様子を見たり、職員から話しを聴いたり把握に努め職員と共有している。		ご家族から小さな事柄でも情報を伝えて頂いた時は、聴いた職員だけで止めず全員に伝わるよう記録に残している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活日誌、連絡ノート、朝・夕の申し送りで毎日の状況を共有し、ユニット会議、担当者会議、モニタリング等で総合的な把握をしている。出来る事、出来ない事、精神状態、身体状況を職員全体で把握し支援に繋げている。		一人ひとりの1日の生活リズムを把握している。ご家族や関係者からの、出来ない、という情報にとらわれずに出来る事、分る力を職員全体でご本人の生活や全体像から把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもと、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のご本人の状況を把握した上でご家族と話しご本人、ご家族の想いを反映した介護計画を作成している。介護支援専門員が中心となり3ヶ月毎にモニタリングを行いご本人の状況の見直しをし介護計画の作成をしている。ご本人に変化があれば時期に関係なくその都度新たな介護計画を作成している。		入居者さんそれぞれの状況に沿った具体的な介護計画を作成している。職員からの視点ではなく入居者さん主体の暮らしを反映した介護計画になっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		現時点のご本人の状況、ニーズが介護計画、サービス内容と一致しているよう介護計画を作成している。
38 個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		特に注目して欲しい事柄等は生活日誌の特記事項に記載し職員に確実に伝えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		ご本人、ご家族が相談、要望を言い易い関係づくりを心掛け、ホームでの生活に安心感を持ち続けて頂けるよう柔軟な対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		定期的、又不定期のボランティアの訪問がある。地域の民生委員の方は運営推進会議にも出席しホームへの理解を深めてくれている。近隣の小学校、保育所とも定期的に交流をもち協力しながら支援している。本人の意向に沿い市民会館、文化センター、その他催し物が開催されている会場に出向き地域資源を活用している。
41 他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。		他事業所の介護支援専門員やサービス事業者から催し物の情報を得て参加したり、ボランティアに来て頂いたり、市の広報誌を活用してご本人の意向に応じた対応をしている。又ご本人、ご家族の要望に応じて出張床屋、出張美容師の利用、クリーニングの利用をしている。
42 地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		運営推進会議への出席や入居の相談等を通して協働している。会議、講演会等で顔を合わす機会には情報交換をし支援に繋げている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご本人、ご家族の意向を聞きそれに沿った受診支援をしている。特に要望がない時はホームの協力病院の説明をし、ご本人、ご家族に決定して頂き受診に繋げている。緊急時にはご家族と連携を取り適切な医療が受けられるよう体制を整えている。又状況により訪問診療、訪問看護の利用もしている。		受診方法、情報の伝達方法についてご家族と話し合い合意している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の中には精神科をもつ医院も含まれており、介護認定更新時の医師の意見書作成を依頼している。受診時には医師との良い関係が築けるよう留意している。		受診時に職員よりご本人の日常の詳しい状況を医師に伝える事で、入居者さん個々が適切な診断や治療を受けられるよう支援している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており日常の健康管理、急変時の対応をしている。又受診時には看護職とも良い関係作りに留意している。不在の時は介護記録をもとに確実な連携をとっている。		看護職は入居者さんの普段の状況や疾病を理解しており、24時間の対応、及び急変時には救急受診すべきか、朝まで様子を見るか等の判断をし、介護職員と連携を取り支援している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された際にはホームでの生活、既往症、受診状況、服薬等必要な詳しい情報を提供し医療と連携している。入院中はお見舞いに行ったり、ご家族と連絡を密にして病状について情報を得ている。又病院と連携し早期退院に向けてホームの受け入れ体制を伝えている。		入院時には病院に対して、ご本人が出来るだけ混乱が少なくなるよう日常の様子や特徴等を伝えている。ご家族、病院と退院後の通院、対応について具体的な話し合いをし受け入れ体制を整えている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の契約時にホームの「入居者さんが重度化した場合の指針」を説明し同意を頂き方針を共有している。入居者さんが重度化された場合はご本人の思いを大切に、医師、ご家族、職員が話し合いを重ね方針を決めている。		ご本人や、ご家族の想いを大切に、どう向き合ったらよいか対応し得る最良の支援方法を職員で話し合っている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	同意を頂いた「入居者さんが重度化した場合の指針」に基づき、かかりつけ医とともにチームとして支援に取り組んでいる。ご本人の想い、ご家族の想いを受け止め医師と連携しながら方向を決めている。チームとしては日々様子を共有し、今必要としている事を見極め細かな対応をしている。ご本人の状態に変化があればその都度ご家族の同意を得、対応している。		重度化された際の支援に対して研修会に出席したり、他グループホームの終末期の対応の事例報告を参考に話し合いをする等して職員全員の資質向上に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えによるダメージが最小限となるようホームでの生活の情報を提供し、新生活にスムーズに入れるよう支援している。</p>		<p>今後も住み替える入居者さんがいらっしゃれば、ダメージが最小限となるよう支援していく。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>守秘義務については採用時に説明し理解を徹底している。職員の意識向上を図るとともに入居者さんの誇りや、プライバシーを損ねない対応をしている。</p>		<p>他のご家族や外来者に対して職員がご本人のプライバシーに関する事を話さない事を徹底している。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定を大切に考えている。ご本人が決定出来るよう、又希望の表出が出来るよう信頼関係づくりをしている。言葉で意志を伝えるのが難しい方に対しては表情や様子、行動から想いを受け止め支援に繋げている。</p>		<p>職員主導ではなくご本人の想いを第一に対応していく姿勢を大切にしている。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れは作っているが、決められた時間で過ごして頂く事はしていない。一人ひとりのその日の体調やペースに合わせて対応している。</p>		<p>入居者さんのペースに合わせた対応をしている。起床、食事、外出、入眠時間等一人ひとりの希望に沿った支援をしている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居以前からの馴染みの美容室に出かける支援をしている。季節に合った衣類着用の支援、お化粧品、髭剃りの支援、又出張理容師、出張美容師を定期的に利用し整容への支援をしている。外出時には場所に見合った服装の支援をし、その方らしいおしゃれと身だしなみを整えていただいている。</p>		<p>身だしなみを自己決定の一つと考え、ご本人の好みで整えられるよう支援している。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の買出しに同行して頂き食事づくりへの参加をしていただいている。調理の中で出来る事はしていただき、後片付けも出来る範囲でもらい、持っている力を活かしていただいている。職員が同じテーブルで同じ食事をしながら会話をし食事の時間が楽しいものとなっている。</p>		<p>誕生会にはご本人に好みの料理を聴き御祝い食としている。又イベントがあれば行事食とし、楽しんでいただく対応をしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好、食べられない食材の把握をし、好みに合った食事の提供をしている。体調不良時や食欲が無い時はご本人の食べられる物、食べたい物を提供している。		入居者さんの好み、嗜好品を知り日常的に楽しめるよう対応している。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作り一人ひとりの排泄パターンを把握し時間を見計らい排泄の促しをしている。声掛け時にはプライバシーに配慮している。トイレの場所がわからない方に対しては行動の見守りを常時行い素早く察知し案内している。入居時に紙パンツ使用の方が入居後は使用しなくなった例もある。		ご本人の様子観察をしながら負担にならないよう留意し声かけ、誘導している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴可能である。曜日を決めたりせず入浴したい方に入って頂ける対応をしている。入浴中は洗髪、洗身等出来る事はして頂き、職員は見守りしながら出来ないところを支援している。一対一対応なのでくつろいだ雰囲気の中で想いを聴く機会となっている。		入浴をしたくない方に対しては無理強いして入っていただくのではなく、入りたい気持ちになるような声かけをしている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活習慣を大切にしている。時間で決めるのではなく、起きたい時に起き、寝たい時に寝ていただいている。日中の活動が夜間の良眠に繋がると考え、出来る範囲で動いて頂く対応をしている。居室内の温度、湿度調節や季節に合った寝具使用の支援をしている。		その日のご本人の、外出、受診、来客、入浴、生活参加、他入居者さんとの交流等の個別の疲れ具合に合わせて休憩を取っていただいている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を知り、もっている力を発揮していただけるよう支援している。ホームの中で役割をもつ事が生活の張りに繋がると考えている。あらためて何かしていただくのではなく、生活の中の細かな一つひとつをして頂く支援をしている。		一人ひとりの持っている力を引き出す努力をしている。力はあっても「したくない」と言われる方には声掛け、誘い方、回りの雰囲気作りの工夫をし、していただけるよう対応している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持が可能な方にはご家族と相談し小額を自己管理して頂いている。買物に出かけた際や受診時に支払いをして頂いたりしている。自己管理が難しいと思われる方にはホームでお金を預かり必要な時にご本人に渡している。		お金を支払う行為を行う事で持っている力の維持と、社会性の維持に繋がる対応をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自由に散歩に出かけて頂いている。ドライブ、買物、催し物観賞等、外出の機会を多くもっていただけるよう支援している。行きたい所があれば出来る限り希望に沿う対応をしている。		歩行が困難な方に対しては車、車椅子等を使用して外出の機会をもっといただく対応をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	水族館、道の駅、催し物観賞、花見、外食、サクランボ狩り等への外出支援を楽しんで頂いている。ご家族には行事のお知らせをし参加して頂いている。		一人ひとりの想いや願いを叶えられるよう入居者さん、ご家族等と相談し協力を得ながら実現に向けた取り組みをしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話をかけて頂く対応をしている。手紙を書きご本人がポストに投函する事もある。届いた手紙はそのままご本人に渡している。一人で返事を書くのが難しい方には職員と一緒に書く等の支援をしている。		ご家族、友人、知人からの手紙や電話を歓迎している。内容が漏れないよう留意している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	どなたでも気軽に訪問していただけるよう来やすい雰囲気作りを心掛けている。訪問時間等は定めておらず仕事帰りや、ご家族の都合のいい時間にいつでも訪ねて来ていただけるよう配慮している。		居室で話しをしたり、ホールで話しをしていただいたり、とホーム全体を利用して過ごしていただいている。

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を作り定期的に会議をもっている。職員に対しては日常業務の中やユニット会議の中で拘束について意識を高める指導をしている。身体拘束にあたるケアはしていない。		身体拘束によって入居者さんが受けるダメージを職員は理解しており拘束しないケアを実践している。
----	---	---	--	--

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自由に外出していただくのを基本としている為、生活時間帯は玄関に施錠していない。職員は施錠する事の弊害をよく理解している。		外出の際は職員が同行している。職員は外出する行動を見落とさぬよう見守り連携が出来ている。
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はホールに必ず職員がおり常に入居者の所在確認や体調観察をしている。夜間は夜勤者が定時に見回りをし入居者の様子を把握し安全に配慮している。日中、夜間を問わずプライバシーには充分配慮をしている。		職員が互いに連携し声を掛け合って入居者の所在の確認、様子観察をしている。プライバシーへの配慮も充分行っている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険かどうかの判断をし、危険と思われる物は安全な場所に移している。一人ひとりによって危険と思われる物が異なる為その方の状況に応じて対応している。		管理が過剰にならないよう一律になくすのではなく、十分に検討し一人ひとりの危険と思われる物を把握した上で対応している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの身体、精神状況を見極め、事故の起きる可能性を予測し防止に繋げている。事故が起きた際はインシデントレポートを提出し原因を探り、繰り返さない為の対応策を考えている。		転倒、服薬ミス等同じような事故を繰り返さないよう経験から学ぶ事を大切にしている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し急変時や事故発生時にすみやかに対応出来るよう備えている。救命救急の講習を受け応急手当を学んでいる。夜間の急変や事故に対しては連絡体制を整えている。		夜間、職員が少ない時の応急手当、その後の連絡、対応方法について想定し周知している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署と協力し入居者さんも参加した避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練では地域の方々の協力を得る体制を作っている。		同一敷地内の系列の施設と連携を取るとともに、地域の方々の協力を得る体制を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	安全第一に考えながら一人ひとりのしたい事を支援する事を大切にしている。起こり得るリスクについてはあらかじめ家族と話し合いをもち理解していただいている。		リスクについて個別にご家族に話しをしている。安全を守る対応が抑圧感とならないか常に振り返り、定期的に見直しをしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化、異常を早期に発見出来るよう常に職員に指導している。異常があればすみやかにバイタル測定、体調把握をし、管理者、看護師に報告し指示を受け対応している。受診となった際にはご家族の理解を得受診対応している。連絡ノート、申し送り、生活日誌を活用し情報の共有をしている。		常に入居者さんの顔色、様子等に注意をし異常の兆候を見落とさないよう全職員に指導している。変化の状態を報告するとともに簡潔に記録をし医療に繋げている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服薬一覧表を作成し常に最新情報をファイルし服用の目的、副作用、用法、用量がいつでも分る体制を作っている。新たに処方された薬の服用開始時や、それまで服用していた薬を止めた際には状態変化を観察し都度対応している。		職員は服用の大切さと誤薬の危険性を知りご本人の既往症と関連付けて理解するよう取り組んでいる。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘の原因、影響を理解している。入居者さんには毎朝冷たい牛乳を飲んで頂き朝食後はトイレへの声掛けをし排便に繋げている。必要な水分摂取の為に茶、コーヒー、ココア、ジュース等色々な種類の飲み物を提供している。ラジオ体操、散歩、生活参加を促し身体を動かしていただくよう働きかけている。		一人ひとりの排泄状況を把握しその方に合った支援をしている。下剤服用や浣腸を使用している場合はその方に合った使用量、頻度を考えむやみに薬に頼らない対応をしている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアの促しをしている。義歯使用の方に対しては就寝時に義歯の洗浄支援をしている。口腔内、義歯、歯の状態により歯科受診をして口腔内の清潔保持の支援をしている。		口腔ケアの講習会への参加やユニット会議の中での勉強会等で職員は口腔ケアの大切さを理解している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を生活日誌に記載し必要量の摂取に繋げている。飲み込みや嚥下状態によりトミ剤を使用したり好みの飲み物、食材の提供をしている。その方の嚥む力、口腔内の状態等を把握し一人ひとりに合わせた栄養摂取、水分確保の支援をしている。		一人ひとりの咀嚼力、嚥下状態を把握している。食事は職員が同じテーブルと一緒に食べながらその日の食事量、水分量、嚥下状態等を観察している。むせ込み等があればどの食材でむせたのか、どのような形状だったかを検証し誤嚥性肺炎の予防に繋げている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し職員に周知している。職員は手洗い、うがいを徹底し自分自身の体調管理をしっかり行い予防している。夜勤帯の中で椅子、テーブル、手摺、うがい用コップ等の消毒を行っている。インフルエンザの予防接種は入居者さん、職員の全員が受けている。		感染症に関する研修会に出席したりホーム内で定期的に勉強会を行い感染症に対する予防や対策を行っている。マニュアルは定期的に見直し常に新しい知識、技術を学んでいる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、布巾等の消毒、調理時の手洗いを徹底し、手洗い後はペーパータオルを使用し衛生管理を行っている。食材はこまめに買出しに行き新鮮な物を用意している。冷凍する食材はすみやかに処理をしている。残った調理済みの物は次に回さず廃棄している。		賞味期限、消費期限に留意し常に安全な食材を使用している。衛生管理方法について職員は熟知しており実行している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関やスロープに沿って花を飾ったり、定期的に草刈をし明るく清潔な雰囲気を作っている。冬場は除雪や氷割りを行い安心して出入り出来るようにしている。ホームの玄関から裏の畑まで車椅子での移動がしやすいようアプローチを整備している。		ホームの建物は道路から坂を登った所にある為地域の方々が気軽に立ち寄るには難しいところがある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの窓から畑、木、山等自然が見え季節を感じていただいている。湿度、温度を定時に測り、過ごしやすい環境作りをしている。畑から花を切ってホールに飾ったり、秋には栗を拾って飾ったりし季節を感じて頂けるよう配慮している。		ホールの壁面に入居者さんが作った物を飾ったり、行事毎にポスターを貼ったりしている。行事毎の写真も貼りくつろげる空間となるよう配慮している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関外、玄関内に椅子を置き外の空気に触れたり景色を眺めながらくつろげる場所を作っている。階段途中の踊り場の窓からのんびり外を眺めている方もいる。ソファで過ごしたり、ホールイスでくつろいだり好み場所で自由に過ごされている。		一人ひとりの状況を見ながら必要と思われる居場所作りに取組んでいる。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には自宅で使っていた馴染みの家具をもって来ていただくよう話しをしている。ご家族の写真を飾ったり、ご本人の写真を使って作ったカレンダーを貼ったりくつろげる空間としている。ご本人の生活習慣に合わせ家具等自由にもって来て頂き、ベッドではなく布団を敷いて休んで頂く等自宅での生活を継続している。		使い慣れた家具類がある事で居心地良い空間となり入居当初の安心感に繋がるよう配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温、換気に配慮をし入居者の状況、体調に応じてこまめに調整している。0時と9時に湿度、温度を測定し適切な湿度、温度となるよう対応している。		湿度、温度の調整は数値や職員の感覚だけで行うのではなく入居者さん一人ひとりの状態に配慮しながら行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	つまずいたりしないよう建物全体は段差がない作りとなっている。手摺は最低限の設置とし身体機能の低下を防いでいる。階段は適度に広く作られており昇り降りする事で運動にもなっている。車椅子、歩行器等を使用している方に対してはエレベーターを利用して頂き安全な環境となっている。		入居者の身体機能の変化に考慮をし状況に応じて生活環境を整えている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来る事は何か、を見極め出来る事はしていただく対応をしている。今出来る事だけをして頂くのでは無く潜在している力を出して頂けるよう支援している。混乱や失敗を防げるよう職員がその方の力に合わせた対応をしつつ、一人ひとりもっている力を活かして生活していただけるよう支援している。		ユニット会議で一人ひとりの状態の確認をし混乱がある入居者がいたらしゃれば原因を探り対応を話し合い出来るだけ自立した生活を送っていただけるよう支援している。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外周りは入所者の散歩コースとなっている。畑と花畑があり作物の収穫は自由にしていただいている。玄関前はスロープとなっており車椅子、歩行器使用の方が外の空気に触れる場所となっている。畑までアプローチの整備をし移動の安全を図り外気に触れる事を楽しんで頂いている。		ホームの中だけの生活ではなく外気に触れる機会を多くもっている。畑作りが得意な入居者さんには種まき、草むしりをしていただく等日常的に楽しんで頂いている。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

私達は日々入居者さんと触れ合う中で「生きる力」を与えられ「生きる喜び」を感じさせていただいております。また、多くの事を学ばさせていただいております。その中で「心」と「心」の繋がりがあって初めて信頼を得る事ができ、側に寄り添い、ゆっくりなづき、お話に耳を傾け、手を握り一緒に笑うことが出来る喜びを感じております。

入居者さんの自由な外出、散歩をしていただくため施設をしない玄関、また、それを支えるためゆとりあるスタッフを配置しています。入居者さんの生活ペースに合わせた日常生活差を送っていただくためスタッフ都合の支援は行っていません。